

「七夕まつりに」

千葉県 總寧寺住職 照井文隆

きれいな紙を折りたたんで、丁寧にハサミを入れて行く…そーっとそーっと広げれば、ほら！天の川の出来上がり。笹の葉にかけて、両側にお星さまを取り付けて、願い事を書いた短冊を下げれば七夕飾りの完成です。

遠い昔、短冊に書いた願い事はかないましたか？

子供たちへ

毎年、七夕の前になると子供たちが、私のお寺に竹を取りにやって来ます。こんなお話をしました。

「皆さん、こんにちは。今日はお寺に七夕の竹を取りに来てくれてうれしく思います。七夕については先生方やお家の人にお話を聞いていると思います。天の川のこちら側と向う側に住んでいる織姫さまと彦星さまが、一年に一度だけ会える日が七夕です。一年に一度しか会えないのだから、二人ともその日をととても楽しみにしていて、大切な一日をどのように過ごそうかと一生懸命に考えていると思います。もし、みなさんが織姫さまと彦星さまだったらどうですか？きっと同じように考えますよね。

では、毎日会っている人とはどうでしょう。先生方、お家の人、お友達…、いつも会っているからあたりまえ、と軽く考えていませんか？それでいいのかな？いつも会っている人たちこそ、本当に大切な人たちです。織姫さまや彦星さまのようにお互いを大切にしまわね。それが、みなさんへのお願いです」。

我逢人

我逢人（がほうじん）、「我レ人ニ逢フナリ」。ご本山の江川辰三禅師さまが、ご自身の“杖言葉”として大切になさっている禅のことばです。人と人の、心と心の出逢いをおろそかにせず、そこに在る尊いご縁を大切にしてくる事を説く言葉です。禅のおしえは、日常生活を離れた所には決して無い、と言われます。常に身近にあって実際に行じてゆけるおしえとして心に留めておきたい言葉です。

心に願いを

禅のおしえが日常生活の中にあるのなら、大切なのは「今」「ここ」を「自分」がどう生きるかに他なりません。私たちは二度と来ない今という時を生きているのだから、初めて出逢う人はもちろん、一年振りに逢う人も毎日いっしょにいる人も、その日その時が初めての出逢いなのです。その出逢いを大切にしてください。「我逢人、人との出逢いを大切にできますように」と心の中の短冊に書いて下さい。

☆あなたの願い事がかないますように…☆